

第4回千代田区都市計画審議会都市計画マスタープラン改定検討部会  
(文化・自然・地域経営部会) 議事録

1. 開催年月日

平成31年2月20日(水) 午前11時03分～午後0時36分  
千代田区役所4階 401会議室

2. 出席状況

委員定数5名中 出席4名

出席委員 <学識経験者>

【部会長】池 邊 このみ	千葉大学教授
中 村 政 人	東京藝術大学教授
福 井 恒 明	法政大学教授
三 友 奈 々	日本大学助教

関係部署

佐 藤 尚 久	環境まちづくり部参事	環境まちづくり総務課長事務取扱
夏 目 久 義	環境まちづくり部環境政策課長	
齊 藤 遵	環境まちづくり部建築指導課長	
三 本 英 人	環境まちづくり部麹町地域まちづくり担当課長	
神 原 佳 弘	環境まちづくり部神田地域まちづくり担当課長	
佐 藤 武 男	環境まちづくり部地域まちづくり課長	

庶務

印出井 一 美 環境まちづくり部景観・都市計画課長

3. 傍聴者

4名

4. 議事の内容

議題

- (1) (仮称)千代田都市づくり白書案について
- (2) 千代田区における都市づくりの主な論点・テーマについて
- (3) 都市計画マスタープラン改定イメージ(全体構想・分野別構想等)について

《配布資料》

次第、席次表、千代田区都市計画審議会都市計画マスタープラン改定検討部会委員名簿

資料-1 千代田都市づくり白書〔Ⅰ〕「都市の特性と魅力」編(案)

資料-2 千代田都市づくり白書〔Ⅱ〕「都市データ・資料」編(案)

資料－3 千代田区における都市づくりの主な論点・テーマと都市計画マスタープラン改定イメージ

《参考資料》

参考資料－1 千代田区都市計画審議会諮問文（写）

参考資料－2 第3回千代田区都市計画審議会都市計画マスタープラン改定検討部会議事録・議事概要

参考資料－3 千代田区都市計画マスタープラン改定スケジュール

参考資料－4 平成30年度第2回都市計画審議会議事録

参考資料－5 東京における土地利用に関する基本方針について（千代田区関連部分）

5. 発言記録

【印出井景観・都市計画課長】

既に前の部で傍聴の方が入っていらっしゃいますので、引き続きということで傍聴の確認は省略をさせていただければと思います。

改めて、大変お忙しいところ、お集まりいただきありがとうございます。検討部会のほうを、少し大きくくりで言うとソフト系と、あとハード系みたいな形で分けさせていただいて、こちらのほうは自然とか文化とかという形で確認いただければなと思っております。

もう資料の説明等を始めてしまってよろしいですかね、確認とか。

【池邊部会長（以下、部会長）】

はい、結構です。お願いします。

【印出井景観・都市計画課長】

今日お配りをしたのは次第に1枚ございますけれども、次第と、席次表等々、それから名簿、今まで何回かご議論いただきながら複数の資料を、まとめの作業をした都市づくり白書ということで、これはたしか三友先生のほうから「まち」編というのはわかりにくいという話だったので、「都市の特性と魅力」編という形にさせていただいたのと、これの裏づけになるデータ・資料編集ということで、大変見るのも苦労なのかもしれないですけども、できるだけ16ポイント以下は使わないように努力をさせていただきました。

それから、資料の3として、この白書をまとめるプロセスでさまざまに今後の都市づくりのテーマについてご意見をいただきましたので、それを整理した資料が、オレンジの地でA3で資料3ということになっています。

参考資料は、参考資料1から4は、改めて諮問文ですとか議事録並びにスケジュールでございますが、参考資料の5というものが一番最後にA4で2枚ものでございますが、これは今、東京都で区域マスタープランの改定がされていますので、その千代田区、それに向けた答申が2月6日、7日に出ていまして、その中で千代田区に関係するものを抜粋したものでございます。その概要が2枚目の資料でございます。

引き続き、資料の説明をさせていただきますけれども、白書の「都市の特性と魅力」編の中で、この部会

でご意見をいただいて、大きなところだけ、また細かく説明すると時間がかかってしまいますので大きなところだけ説明しますと、「都市の特性と魅力」の、この白書の43ページに、要は千代田区の地域特性として周辺に、他の区と結節するさまざまな拠点ががありますよね、それは歴史的にも江戸城の御門だったりというところがありますよね、そこも含めてマスタープランの中で連携についても記述できないかというお話がありましたものですから、そこについて都市軸を示した、都市構造を示した図の中にプロットし、次のページ以降、Columnとして大手町、常盤橋から、神田と日本橋の関係、4番として日比谷・有楽町と銀座の関係、それから、まさにセットエリア、岩本町・東神田、馬喰町・東日本橋の関係、これ文化資源会議とも関わりますけれど、秋葉原・外神田から御徒町との関係、次のページに行くと、飯田橋と、いわゆる後楽園、8番、飯田橋界わいの文京区側の開発の話もあったりしている中で、そちらの関係、それから神楽坂との関係、それと、あと右側で言うと、11番の紀尾井町・永田町、赤坂の関係とか、13番の日比谷・内幸町、もう新橋から汐留までつながる関係ということを示しております。先ほどの部会でも、これをもっとブレイクダウンして都市マスに書けないかという話はあったのですが、今、ちょうど東京都が区域マスタープランを検討している中で、東京都に対してそういう問題点を指摘するというのはあると思って、果たして担当している区の中でどこまで書けるのかというのは宿題として受け止めたところでございます。

【部会長】

東京都はすごく期間が短くて、指摘できないのではないですか。

【印出井景観・都市計画課長】

そうなのですよ。

【部会長】

はい、すみません。ありがとうございます。

【印出井景観・都市計画課長】

そもそも話を聞いてくれないというのものもあるかもしれないので。

【部会長】

そうですね、ええ。

【印出井景観・都市計画課長】

だとしたら、何らかの形でそういう方向性、千代田区としては、こういう周辺部と連携するのだよということを意思表示するというのは確かに必要なと思っています。

【部会長】

Columnにしておくのはもったいなくないかなという。

【印出井景観・都市計画課長】

はい。これがこの白書のほうになっています。

それから、データ編のほうなのですけれども、これはページ数が多くなって恐縮なのですけれども、今まで1ページにいくつも入れたのを、ちゃんと見えるようにしたというところがページが増えた理由でもあるのですが、一つは、これまでさまざまに人口とか土地利用とか資料をお出ししていったところを、69ページ以降、各都市マスの地域別に、ちょっとした地域別のカルテ、地域別に歴史と土地利用と居住とかを、主なものをまとめております。

それから、138ページ以降については、これまでお出ししていた現行都市マスの成果検証、分野別課題の成果検証の資料をわかりやすく再構成をしたということです。

実は、この重要なデータの要素で、人口推計と、あと緑というのがちょうど30年度末で新しいデータが出るので、一応、白書のデータ編なり本編としては、そこを待っていたのでは年度が明けてしまうので、一旦フィックスさせていただき予定です。ただ、それで何か印刷物としてがっとう出すというのではなくて、度末に出てくる緑とか人口推計を入れて。

【部会長】

最新のデータに入れ替えて。

【印出井景観・都市計画課長】

改定をして、1.01版という形で普及を図るのは来年度になってからと考えています。ウェブサイトでの公開についてもそういった形で考えております。

これが今までの白書のもので、今日ご意見いただきたいのは資料3についてなのですが、これからの都市計画マスタープランのテーマについては、ある意味、白書をまとめる中で付随していろいろ重要なお指摘をいただいておりますので、せっかくいただいたものを使いながら、さらに補完・補足・強化していくという形で進めさせていただこうかなと思っております。

前回お出ししたとおり、白書をつくる中で、今後、千代田区のまちづくりの重要な視点として、1から6ぐらいいただいたのかなと思っております。人口が増えていく中で、あるいは人口の構造も変わっていく中で、都市計画、都市づくりについてどう対応していくのだろうというお話でございます。

それから、この千代田区における多様性、多様な交流を踏まえて、どういった都市像を描いていくのかということ。

それから、千代田区の最も顕著な地域特性、世界都市、国際都市・首都東京を牽引する都市のビジョンは何なのか。

それから、先ほどの多様性とも関係しますけれども、まちの構成員が変わってきた、あるいは新陳代謝が激しくなってきた。それから、伝統的なコミュニティとエリアマネジメントみたいなのが出てきた、そういうまちづくりの担い手をどうしていくのだろう。

それから、そういった課題の中で平板に取り組んでいくのではなくて、どれを優先的に取り組んでいった

らいいのだろう。またはどの地域に課題が輻輳、山積していて、どの地域を優先的に取り組む必要があるのだろう。

最後に、このマスタープランの改定のプロセス、それから、つくった後にどうマネジメントしていくのかということがこれまでの部会や都計審の中で論点としていただいているのかなと思っております。

それを踏まえて、2ページ以降なのですけれども、今後の改定都市計画マスタープランの構成にもつながってくるようなテーマのたたき台としてお示しをしています。

一つは、現行都市計画マスタープランの中で記載が不足していたのかなというのは、広域的な東京都市計画の中で千代田区はどういう位置付けなのだろうか。いわゆる羽田とか、あるいは従来、副都心として言われてきたようなところだとか、そういったことは広域的な関係も含めてどういう状況なのか。

先ほど申し上げましたとおり、千代田区に、この左の下の図ですけれども、フォーカスしたときに、周辺部に、周辺の拠点なり周辺の区と関わるところとの関係性もあるのでどうなのかということをしかり示していく必要があるよねというお話でございます。

それから、右上の都市づくりの現在地というのは、この白書の「都市の特性と魅力」編でまとめたようなところをお示ししています。いわゆる都市計画マスタープランのこういった冊子の全体に来るような、そういう内容かなと思います。

でも、この20年の間、青の網かけの下にピンクの網かけでありますけれども、いろいろ外的要因が変わってきましたよねと。直下地震、人口8万人、その人口が増える中で利便性とか文化、まちの来訪者の交流が非常に多様化してきた。それとあと生活スタイル、住むとか働くとかに対して、所有する、借りるとか、もういろいろシームレスになってきたと、あと一方で、なかなか今の生活で実感できないところはあるのですけれども、先端技術、自動運転ですとか、IoTですとか、スマート化ですとか、AIですとかということは、多分5年、10年、20年見据えると、これを無視することができないような、そういった社会変化が出てきたのだろうなと思っています。

このフィルターを重ねながら、先ほど1枚目の中でこれまでいただいた意見を少し主要なテーマとして、違う言葉で言い換えたならどうなのかなというのが右下のボックスになっています。一つは、都心の資産とポテンシャルを生かした創造的な生活の場をつくっていくというところで、これは人口が8万人になってくるという中で、基本的に住むという人もいれば、あるいはもう自分の床を持っていて、その自分の持っている不動産を経営し、まちに関わっている人もいれば、単純に働くという人もいます。その中で新しい価値を生むようなスタイル、生活スタイルが出てきている。そういった多様な人のつながりとか豊かな都市生活の場とか、そういうものが継続していけるようなまちづくりを進めていくのがどうなのかというお話でございます。

それから、真ん中にある1、2、3、4は、この都市の基盤づくり、都市機能更新をする上で必要な基盤・環境性能、そういったもの。その中で重要なテーマとしては、これまでの量的インセンティブ、容積ボーナス以外のエンジンというご指摘が福井先生からあったと思うのですけれども、その辺りについてどうしていくのかということかと思っております。

それから、マネジメントという言葉が少し、いろいろ多岐にわたっていて難しいのですけれども、今までの都市マスだと水辺と緑という形で、どう水辺と緑を整備していくのかという話だったのですけれども、それ

をどう使っていくのか。民の緑と官の緑とか。民の空間と官の水辺とかというのをどう融合して運営していくのかということで、そこにエリアマネジメントが関わってくるのですけれど、官民の融合のマネジメントとエリアマネジメントとわかりにくいので、イメージとしては今まで単純に緑とか水辺を整備してきたというのを、官民の連携も含めてという、そんなイメージでございます。

それから、先ほど紹介したように、新しい技術をどう都市に埋め込んでいくのか。それから、災害対策。

そして、いわゆるこの20年間、とにかく人口が4万人を割ってしまっていて、定住人口は回復したのだけでも、らしさがなくなってしまったよねというのが何となく共通したご意見なのかなと思ひまして、神田らしさ、番町らしさ、の歴史を踏まえて掘り起こして、これから次にどう地域の魅力としてルネッサンスしていくのかみたいな、話になるのかなと思っています。

それを束ねる言葉としては陳腐な言葉にもなるのかなと思うのですけれども、やはり国際都市としての先進性ですとか、レジリエンス、強靱性ですとか、持続可能性。持続可能性というのは、多分、コミュニティの持続可能性もそうだと思います。それも含めて、そういった言葉として整理をしております。

一番ベースの中に、多様な主体が創造性を発揮し、連携すると、この辺りがエリアマネジメントも含めた都市計画、都市づくりとコミュニティのつくり方なのかなと思っています。

こういうまとめを踏まえて、この後、3ページ目は今の都市マスの体系がこうだよと。右側のような体系に改めていくということと事務局としては参考していますということです。

4ページ目が考えの一つのプロセスでございまして、左側の土地利用から環境と調和したまちづくりというのが現行都市マスの分野別の方針のくくりになっています。

右上の薄いオレンジの下地で矢印が七つ並んでいますけれども、これがこれまでの中でいただいた一つの視点で、この今の体系と視点というのを少しマトリックスで考えていったときに、新たなくくり方、連携のキーワードというのがあるのではないかなというのがこの表でございまして。土地利用の話と、これからのまちづくりのテーマで、都心の資産とポテンシャルを生かすというときに、土地利用というよりも、東京全体における千代田区との関係性とか、あるいはエリアの基本特色とか等も含めて、都市の基本デザインという形で言い換えてはどうかという、そういう作業のプロセスでございまして。

これを深く説明していると、多分、次の資料とかぶってしまうので、次の資料に、5番目に行きますが、5番目がそういう縦横の少し検討を踏まえて、新しいキーワードが都心の基本デザインからスマートな次世代づくりというところに行くとしたら、先ほど縦軸でさまざまにこれまでいただいたご意見を、先進性、強靱性、持続可能性に重なるよねという話をさせていただきましたが、どこに関わっていくのかということをお示ししたのがこちらの表になります。

都市の基本デザインというのは、結局三つに関わってくるよねとか、都心生活スタイル創造というのは、主にこれからの新しい都市の生活というのはどうなのかなとかということと先進性に主に関わるのではないかと。移動ネットワークについても、今、次世代モビリティですとか、そういった部分では先進性でもあり、大規模災害に対する避難とかということであれば強靱性にも関わってくるだろうなど。これはそういうような表になっています。

それと、右側のほうには関連するような部門別計画もプロットしたというところでございます。

6ページ目が、これはまさに現行都市計画マスタープランの課題認識と将来像。それから、右側のほうで

言うと、分野別のまちづくりの目標と各地域別の構想になっている。ここはこういうふうになっているのですよということを確認していただければいいかなと思います。

7ページ、8ページ辺りが少し作業を進め過ぎてしまったかなと思っていますけれど、この改定後の骨格イメージです。これは結局、最初にお示した資料を文章的に落とし込んだと、大体見ていただければわかると思うのですが、こんな形になるのかなということです。

8ページにもそれに続いて、新しい都市づくりのビジョンというところで、表現がこなれていませんけれども、都市づくりの主要テーマというのは、皆さんからいただいたものを一旦言い換えた七つのテーマになっています。ただ、これはもう全然十分に精査されていませんので、これをどういうふうに今後のテーマにしていくのかというのを、今日の意見も含めて今後作業を進めていきたいなと思います。

テーマに沿って、2番目として、都市づくりの目標と基本的な戦略を整理していくのですが、まさにこのところは整理中で、枠組みだけがそんな形になっているということを今日はお示ししています。部会の中でも議論になったのですが、やはりSDGsの枠組みで少し検討を深めていく必要があるのではないかというご指摘がありました。実は庁内の中の議論でも、SDGsに対してどう向き合うかというのはかなり難しく、全部やらなければいけないのではないかというイメージを持っているような向きもあるのですが、我々としてはそうではなくて、都市計画、都市づくりの中で何が一番効果的にできるのかということを選んでやっていくという理解をしていますので、その辺りはSDGsと絡めるとすると、どう整理していくのかというのは、まさにこれからの検討になってくると思います。

8ページが、現行都市計画マスタープランの中で記載が少し足りなかった将来像と都市の骨格構造を整理しながら、基本エリアの特性につながっていくというところがございます。

9ページについては、各部会の先生方、都計審の先生方から、それぞれの分野について少し、今回の白書というのが割とポジティブな、魅力とか可能性とかというところでまとめているので、若干シニカルな指摘も含めて各先生方からいただいているところを今の時点でまとめたものがございます。

10ページが、事務局で検討して、現行の土地利用、住環境整備、環境と調和したまちづくりという現行の分野別の目標と方針をいただいたテーマに沿って、マトリックスを使って今後の強化するポイントとしてまとめてみたのが右側の赤字になっています。ここでお示したのは都市の基本デザイン、先ほど来お話ししているような千代田区の都市軸とか、拠点の状況とか、地域特性とかを大きく整理していると。その中で土地利用のあり方も出てくるのだろうなど。

それから、今まで単純に住宅・住環境整備といったところを、やはり住まい方とか働き方とか、それからコミュニティのあり方とか、子育てとか、人生100年時代とかという今風のキーワードがありますけれど、そこも含めた都心生活スタイルをどうつくっていくのかということでもまとめています。

それから、今まで道路・交通というお示しの仕方をしていたのですが、移動ネットワークの構築、ハード・ソフトも含めて整理したらどうかと。

あと、これまで水と緑の整備ということで、先ほど申し上げました、空間をどう整備していくのか。緑、緑被率を増やしていくとか、水辺を増やしていくという話から、それだけではないよねと。どう連携させていくという意味も含めて、プラス居場所の、サードプレイスとかの話も含めて空間のマネジメントという枠でくくっていくと。水と緑が増えればいいのではなくて、そこにどういうふうに活用も含めて運営していく

のかという、そんなような要素を付加したと。

防災まちづくりについては、都市の災害対応力を確立ということで整理をさせていただいています。

実は福祉のまちづくりという項目は、あえて分野別方針から外して、先ほど申し上げた、8ページの都市づくりの目標のところ少し格上げをしながら、ここで言う各強化ポイントの中に多様な人たちが生活するという意味合いの中で、伝統的な福祉というイメージ、それを落とし込んでいくような、そんな形で考えています。ただ、メインになるのは、生活スタイルと移動ネットワークになってくるのかなと思っています。

景観についても、景観づくりというよりも少し使い方とか、あるいはリノベーションとかも含めて、都市の風格と境界形成ということで、もう少し射程を広げたようなイメージになります。

最後に、環境と調和したということ、スマートな次世代都市づくりという形で整理をさせていただいて、だから、この辺のスマートの中にはシェアリングエコノミーとかも入ってくるのかなとも思っておりますけれども。

こういう検討をさせていただいた中で、次のページは地域別構想の考え方でございます。地域別構想の考え方、ここはかなり先の、本来はスケジュール的には先に議論するところなのですが、一連の流れで説明させていただきますと、今の現行都市計画マスタープランというのは、出張所別に地域別構想をつくっておりますけれども、実際のまちというのは出張所ごとではないので、そういう中で、先ほど申し上げたとおり、全体の中で千代田区の都市の現況というのを示すとか、周辺区も含めた連携も示しながら、千代田区の中でも少し連担してまちづくりが進んでいくということもちゃんと示したほうがいいよねというところで、少し広域エリアの方向性を示しながら、一方で、やはりまちづくりの合意形成を図る上で、出張所単位別の地域別構想というのにも必要なですね、やはり。出張所のコミュニティというので、そこはそこで残していこうよ。今まで欠けていたところは、出張所別の地域別構想の上に中層で少し現実のまちづくりの動きを踏まえたものを示しつつ、さらにその上位に千代田区全体の都市の将来像をちゃんと都市マスの中に描いていこうよね。これ実は最近、都市マスを変えている港区さんとか、そういうことではもう結構やっていることなので、そんなところになっています。

10ページ、11ページ辺りは、本来、来年度に向けて議論するところでございますので、本日は主に4ページ、5ページを通じて、10ページに至る、この分野別の、今ある土地利用から始まって環境と調和したまちづくりという、そういう施策で言えば縦割りの整理の仕方を、もう少しそれぞれの分野が連携する言葉に言い換えて体系化することができないかという、事務局の提案に対してのご意見をいただければなと思っております。

一応、資料のご説明は以上でございます。

#### 【部会長】

ありがとうございました。

多分時間があいたのと、結構まとめるとこうなってしまうのかという、若干、これはまた後ほどの皆さんの議論だと思うのですが、今まで、特に文化・資源・地域経営部会ですけれども、人に少し焦点を当ててというのはいろいろ入れ込んでいただいたのですが、やや私も後ほど意見をさせていただきますが、やはりまとめると何となくあり物の都市マスになってきているのかなという、多分すごく今までの時間、



これだけご苦勞なさってあれなのですけれども、非常に資料とか、そういうものについてはもう満遍なく入っていたのですけれども、その辺りも含めて、今日せっかく分科してやっていただいていますので、その辺りに注力してご意見を賜ればと思っております。

### 【部会長】

では、私のほうから、たまたま、これはまだ、本邦で公開しているのかどうか分からないのですけれども、今うちのドクターの学生がやっているものの中で、「公共施設の屋外空間におけるパブリックスペーシャルファシリティマネジメント」という学位論文を、今はもう審査は終わって公開前なのでいいと思うのですけれども、その中にコンヴィヴィアルという言葉を使っているのですね。コンヴィヴィアルというのは、人がいても何かみんながコミュニケーションしないで、何かうなだれて下向いてお弁当を食べていればコンヴィヴィアルではなくて、何となく少し集まったり、何人かでしゃべっていたりとか、そういう感じだとコンヴィヴィアルで、それはまだこれから、彼女のオリジナル概念なので私あまり解釈してはいけないのですけれども。

それで今回、人に注力を当てていただいたのですけれども、一つは、コミュニティの行事だとか、あとはフェスティバルとか、千代田区はいろいろ中村先生も含めて、小さいものも大きいものも含めていろいろやられていますよね。だから、何を言いたいかというところ、今までは公共施設だとか、そういう何か箱物で人が集まれるところとか教育施設とか、そういうのは都市マスの中で箱の調査はしていただいているのですけれども、実際に楽しんでいるという、その機会というか、そういう場所や事がどこでどんなふうに行われているのかというのが多分欠けているかなと。今、国際的なトレンドとしては、やはり人は楽しんで健康で生き生きしている。それが結果として福祉に結びつくとか、そういうことであって、ターゲットを福祉にするとか、バリアフリーにするとかという問題ではなくて、障害者の方でも、要するに出られるイベントがどのくらいあるとか、そっちのほうが多分中心なのです。

そうすると、千代田区の中にも結構アミューズメントスペースはあると思うのですけれども、それは例えばどこで人が楽しめるのかということも、普通だと、今までだと図書館、ホール、映画館という感じなんだぞと、昔だとそうだと思うのですけれども、人がどこで楽しめるのかなということも若干少ないのかなという感じがして、そういった意味では、ホットスペースというかアクティブスペースとか、例えばあれがいいとは言いませんけれども、渋谷はもう大変なお祭りになっているわけですよね、ハロウィンとか。でも、あれもやはり渋谷の持つまちの吸引力であって、若い人があれだけ集まる。あれは、やはり都市マスにもし渋谷区さんがやるべきだとすれば、対策も含めてですけれども、やはり誇れるものでもある。では、千代田区さんの場合に、昔は祭りがすごくいろいろな町内会を練り歩いていたはずなわけですよね。でも、今、みんなすごくオフィスビルがいっぱい建ってしまって、神田とかもそうですけれども、なかなかそういう練り歩くとかという感じではない。赤坂の日枝神社とかはこの前、去年でしたか、結構大々的にやっていましたけれども、何かそういう部分が若干少し何か足りてないのかなという部分があって、そういうアミューズメントとかホットスペースとか、あとコミュニティのハブになる施設。前回、中村先生にいろいろご紹介していただいたようなものとかレンタルスペースとか、そういうものというのは結構コミュニティのハブになる。今まではそれがオフィス利用という割と概念だったのですけれども、それが例えばコミュニティで借りればも

うちちょっと安いとかという部分も含めて、何というか少し、ほかの都市だったら公民館でやるのかもしれないけれど、それはもうちょっと千代田区の場合はそういうスペースでも多分できるし、もう既にNPOの方なんかはやっているのかなとかと思う。

あと、景観面で言うと、どんな景色なのか。緑が多いとか、美しいとかという感じではなくて、例えば居心地がいいとか、それからスマートに感じるというところだとか、それから温かいとか。例えば今、私、銀座の街路樹なんかもやっていますけれども、例えば丸の内の仲通りがあれだけ花ができて、ほかの地方自治体に来て、なぜ仲通りをやりたいかという、別に街路樹は関係ないのですよね、正直言って。ケヤキだろうが何だろうが。ハンギングフラワーと花の雰囲気というのですかね、あれが欲しいのですよね。しかもそこに何か休憩できるような。幅も正直言ってほかのブランド街に比べると、非常にヒューマンなスケールの中にあれがおさまっているということで中通りを目指して来る。そうすると、仲通りの出している景観というのは一体何なのだろうかと。スマートなものではないですよね、決して。だから、まさに割と居心地がよくて、では、にぎわいかというと、いわゆるにぎわいではなくて、そこら辺が非常に千代田区らしいにぎわいなのだろうと思うのですけれども。

それからあと、では景色といったときに、さっきおっしゃられた歴史風格みたいなものの、その景観というのはどうして、どうやって出していくのかという、何かその辺りというのがもうちょっと同じ景観とかというのでも違うし、あと、公園でもすごくみんなが集まって、いわゆるコンヴィヴィアルしている空間と、広いのだけれど、ほとんど人がいないとか、そういう部分。例えばキッチンカーがよく来る場所とか、そういうところも出てきてなくて、今もうQRコードとスマホの時代なので、そういうすごい人が動いているはずですよ、キッチンカーとかを通じて。そういう人の部分というのが意外に出てなくて、相変わらずオフィスの人は、ではオフィスの中で、社食で食べているのかというと、そうではなくて、丸の内だとかの人は結構いいところに出て行って、昼間はちょっと歩いてどこまで行って2,000円近くのお食事食べてこようかというときも1週間に1回ぐらいはあるはずなのですよね。でも、そういうことができるところが丸の内のよさだと思うのですよね。だから、何かそういう人が生き生きして楽しめるという、そこを歩くときに公開空地が続いていて、そこを歩いていくと森に隠れたレストランみたいなところでご飯が食べられると。それがやはり千代田区のよさなのかなと思うので、何となく人にテーマを当てた割には、そういうスペースというのがいまいち何か、そういうスペースとか、そういうことが千代田区の人たちのことなのだよという感じが何となく出てこないのかなという気がして、それはどうやっているのか。

#### 【印出井景観・都市計画課長】

今、簡単にコメントなのですけれども、その10ページのところで、今、池邊部会長がおっしゃられたようなことを都市マスの中でどういうふうに整理して書いていくかということ念頭に置いた後に、現行の分野別の体系の中で何となく非常に落としづらいなので、そういう意味で言うと、さまざまな活動領域にまたがるようなところも含めて、右側のような整理をすることによって落とし込める可能性、枠組みとしては、というのが今の段階での考え方です。

#### 【部会長】

はい、そうですね。確かに、特に二つ目のところの都市生活ライフスタイル創造というところで。

【印出井景観・都市計画課長】

はい。それで、非常におもしろかったのは、別の部会では、でも、結局それを実現するのは都市づくり、都市計画だとすると、現実に施策に展開するときに、逆にこういう分け方ではわかりにくいのではないかという視点もあって、それはそれでごもつともだと思っているので、その辺のバランスをどうとっていくのか。結局それはコンプリヘンシブプランニングではないけれど、要は行政計画みたいになってしまうよねみたいな話なので、そこを最終的に調整させるというのはあると思うのですが、ただ、今のさまざまな都市づくりの動きをうまく落とし込むには、やはりなかなか左側でいくとじっくりこないのかなというところがあるので、右側みたいな、ここでフィックスではないですけども、そんなような連携するキーワードを使えないかというのが今日の事務局の資料の出し方ということです。

【部会長】

はい。

いかがでしょう。

【中村（政）委員】

やはり今の10ページのところで、従来の分野と言っているのが、非常に空間的な、また、そこにまつわるある意味作業的な背景がすごくベースになっていて、そこに暮らす人の今おっしゃったような幸福観であるとか、何らかのそこでの人生の充実感、本当にいいまちづくりの結果、そこに住み働く人が気持ちとして感じる。それはすごく抽象的なことなのですけども、最終的にそこが幸せにならない限りいいまちづくりにならないですよ。いかに合理的に、経済的にそこでの何らかの収益が上がったとしても、結局働いている人が管理、管理で、住む人は住みにくくて、何か結局みんなDVでという最近のニュースを見ると、最終的に心が痛んでいるのではないですか。そういうものはなかなか入りにくいのですよね、やはり。でも、ちょっとだけあれだと、憲法の25条の国民の権利というものには、やはり全ての国民は健康で文化的で最低限の生活を歩む権利を有するというふうに憲法に書いてあるのですよね。ここをどう解釈するかということは非常に大事で、この資料の中で「文化」という言葉は非常に少ないのですね、やはりまだまだ。ビジョンの中に「文化」と入れるのは難しいのかもしれないのですけれども、結局、文化というのは全ての要素に付随してくるので、最終的に今おっしゃっている楽しみが、そのまちでの暮らし、働き、または旅行に来たときの体験できる楽しみ方を落とす、そこでのビジョンが一つ見えてこない、やはり机上の空論になってしまうのではないかなと思います。それが一つ。

あと、気になったのは、これを実際に実現するプレーヤーが見えてこないのですね。ここに書いているものを誰が行うのか。その行う人自身がどういうモチベーションで、どういうスキルを持ってこれを実現しようとするのか。その人はそういうことを実際に、そういうプレーヤーの人たちがちゃんとこの千代田区で育成できているのか。人材育成の話ですけども。そうすると、やはり今の地域の中ですと、町会何とかということ、やはり町会に入るという一つのクリアをして、そこで先輩たちから学んでいき、千代田の文化を

学んでいくみたいなのが何となく人を育てるという流れ。

大学で教えていても、やはり大学で教えているというやはり限界があって、まちの中にはなかなか入っていけない。となると、ここをもっと総合的に、こういう計画そのものの中で動く、実践を重ねて、その人の成長が千代田の中でちゃんとこういうまちづくりができる人がいるんだよというストーリーが出てこない、いつまでたっても何かコンサルティングとどこかの企業の人たちの開発の流れの中での動きに、そこでの人たちが巻き添えになるというか、そんな感じがしてならないですね。なので、これを実現するために、ぜひ人を育成するといいますか、ここに住み働く人たちが実際に自分たちの生活なり、仕事なりを豊かにしていくという、この大きな都市計画の流れの中で、誰がここをつくっていくのかという、この担い手の部分といいますか、人を育成する部分といいますか、そこがあると、これは区の人たちだけでこれを全部実現しようというのは当然違うわけですから、そこは見えてこないなと少し感じました。

今、印出井さんがおっしゃっている従来の現行方針から、もしくは連携するような方向というのは、これはいいと思うのですけれども、でも、その中で少し抽象化してしまう部分もあると思うので、としたら、やはり文化ということの位置付けをどう捉えるか。それは従来の美術館にあるみたいな話ではないので、まちの中でまちづくりをしている人たちの体に宿っている文化なので身体的文化のことをベースにして考える。その身体的文化というのは、やはりここに生まれ育ったならば自然に身につけていることなので、お金で買っても買えないし、ある意味、勉強してもその資格でも取れないといいますか、そういう身体的文化の部分をこの中にしっかり根づかせてほしいなと思います。

#### 【印出井景観・都市計画課長】

今の補足で、一気に資料進めて、4ページなのでですけど、今回この現行都市計画マスタープランの分野別の枠組みというのを少し見直したいよねという事務局の提案の中で、いくつかこれまでの部会で出てきた意見を、この縦の矢印で示しているのですけれど、今、分野別の整理の中では、左から1、2、3、4、5こまを従来の分野別にマトリックスで整理しているのですが、全体に関わるものとして、一つ右側の、まちの文脈をつなぎ、固有の魅力・価値を醸成させていくという視点と、あと、多様な創造性を発揮し、考え、連携することによってというところが、前者が非常にこの地域の文化を掘り起こすということに関わってくるのかなということと、右側が、まさにその人材を連携させていく指針だと。ただ、明確に書いていないです。イメージとしてはそういうイメージかなと思っています。

特に、ただ、先ほどの部会の中で、都市計画でできること、まちづくりでできることということも意識しないといけないよねというと、もう端的に言ってしまうと都市施設、道路とか公園をつくるとか、土地利用・建物利用に規制をかけて民間にやってもらうとか、市街地再開発で官民連携してやるみたいなものは、本当にごくごく都市計画の分野のまとめなのでですけども、では、都土地利用規制して民間にやってもらうと言ったけれど、本当にやってもらえるのかということを見ると、そこで言う、まさにプレーヤー、それはディベロッパーだけではなくて、リノベーションスクールみたいなものがあつたりますけれども、そういう人たち、いるよね、あとはやってくれるでしょではなくて、しっかり行政も将来像を描くのだったら一緒になって、行政の中の人材育成もそうですけれども、というのはあるとは思うのですよね。その辺はマネジメントの視点の中で盛り込むこともできるのかなと思っています。ただ、枠組みとしては念頭にないわけでは

ないということだけコメントをさせていただきます。

【部会長】

三友先生、いかがですか。

【三友委員】

お二人の先生と関連して、千代田区らしさとは何かと考えると、多様な人たちがいらっしゃるのではないかと思います。区民の方でも代々住まれている方と新たに住まれた方がいらっしゃいます。皆さんご存じのとおり、学生や企業の方といった区民ではない方も区内で日中を過ごしています。最近では国内外から本当にたくさんの方が訪れています。それも観光だけではなくて、ビジネスで訪れる方も多数いらっしゃる状況です。多様にいろいろな方がいらっしゃるの、それぞれに対応するまちなかに多様な居場所が用意されているのが千代田区で、それが千代田区らしさにつながるのではないかと思います。ただ、まだ少ないと思いますが。

その一方で、自分勝手ではなく、良い意味で自分ものとして身近に身の丈に感じることができるのが、まちなかの居場所には必要だと考えています。千代田区にある多くの空間は、そこを使ったり、過ごしたりしても、住民の方でさえも、自分の居場所として感じづらいのではないかと思います。たくさんあって、どこも素敵なお空間なのだけれども、自分の居場所としてリラックスして過ごせないということがないように、数を増やしながらかも、そのあたりのギャップを埋めていくことが今後必要だと思います。

ご存知のとおり、まちなかの居場所は、公園や緑、水辺をはじめ、先ほど部会長がおっしゃったように丸の内仲通りのような街路もあります。他にも、駅も交通結節点として乗り換えるだけではない、そこでの交流も求められています。まちなかの居場所は防災拠点にもなります。そのような点から、この八つに分けられたところは、単独に関係しているのではなく、横断的に関係していると思うのですが、内容をお読みするとそのような視点があまり感じられず、少し残念です。

【部会長】

だんだん落ちていくのですよね。

【三友委員】

そうですね。横断的な視点がまったくないわけではないのですが、どこかで強力に示す必要性を感じています。

【部会長】

はい、ありがとうございます。

### 【福井委員】

制度の歴史的に言って、都市計画の具体的な内容が先にできて、都市マスは後から付け加えられて作ることになった。その感じがやはり少し残っている感じがあるのですよね。つまり都市計画という制度を使って、あるいは都市計画事業を使って、なんらかの都市の価値を生み出す、その目標や位置づけを考えるとこの再編集については考えられている感じがします。しかし、都市マスの本質的な役割を改めて考えると、都市マスの内容を実現するためにどういう手段があり得るのかということに対して幅を広げるという指摘が本来あるべきですが、どうしても既存の法制度や事業があるのでこれに落とし込もうかということになってしまっている。せつかく再編集しているのですが、この項目はあの制度を使うためにあるというのが割と見えやすい。目的に対する手段選定の網の粗さみたいなものがどうしても残ってしまう。もちろん具体的な場所や敷地に即して、手段や手法にまで踏み込んで、どういう新たな展開をしなければならないかということまで書き込んでしまうと、それは法律上の都市マスの位置づけとしては書き過ぎなのですが、最先端に行く千代田区としては、新しいその手法・手段まで展開できるような、こういうことをしないとそれが実現できないのだよということまで書きたいという感じがあるのですよね。今、ここでやっていることは理念としてはすごく意識が高いのですが、どうしても都市計画の手法に引っぱられた枠組みが残っているのは気になったなということなんです。

### 【印出井景観・都市計画課長】

中村委員とか三友先生とか福井先生、要は例えば公開空地をしつらえるとか何とか、土地利用規制をかけて、こういうふうに誘導するとかといっても、それが狙いどおりになっていない、公開空地をつくったけれど、何かこう、なかなかあそこへ行って休むのはなとかいうのは、あるいはそういう土地利用規制しているけれども、なかなかそれを動かすプレーヤーがいなくてとかいうところも含めて受け止めて、どうしたら、せつかくしつらえた公開空地がいい居場所になるのかとか、どうしたら、要はディベロッパー以外のまち場のプレーヤーも出てきて、いいふうにまちが変わっていくのかという、その周辺の部分のサポートというか、そういったものも含めて、ちゃんと書いたらいいのではないかみたいな、そういう受け止め方でいいですかね。

### 【中村（政）委員】

そういうものを根本的には、最初に先生がおっしゃった、神保町だと古書店祭りとか、いろいろ既に神田スポーツ祭り、いろいろなのがあるではないですか。

### 【部会長】

それは全然書かれてないですよ。

### 【中村（政）委員】

ちょうどこの前も雪だるまを僕らもつくったのですが、ああいうときは道路に雪をどんと置いて雪だるまをつくったりするではないですか。それが観光のポイントになったり、お母さん、子どもたち、楽しみ

にしている、あそこの中にはすごくつながりを持った、実は歩道の活用とか公園の中での活用も含めて、かなり領域を横断するような動きが生まれているはずなのですね。そういうものが、実はまち場の人というのは、僕らもそうですけれども、まちを使って楽しみたいので、それさえ何らかの法規的なものを越えていく、越えてというか、そのつながりを促していくようなものができる、何か現実的に感じやすくなるというのですかね、ここでのまとめていることが。なので、例えばこの防災に関してのお話も、ただ防災、防災と言っていると、当然、何か防災を、子どもたちもそうですけれど、何かやらなければいけないのねという義務になるのですけれども、そうではなくて、楽しいそういうイベントなり、フェスティバルみたいなものをつくっていくことで、そこで新住民と旧住民の人が、例えば一緒になってイベントをつくる、ということによって初めて社会関係資本がある意味深まっていくわけで、深まってきた中に防災という意識とかを考えると、今度、顔が見えたから、あの人よく知っているから、あのおばあちゃんを助けにいこうよという気持ち自然に出てくるのですよね。つまりそういうように、その辺の一つの流れが、都市の文脈の流れに対して、さっき八つの中での、本当はこここの領域を横断している部分が出てくるといいよねと先生がおっしゃったのはすごく実感します。なので、何かそういう、そこら辺の部分をもう少し理解しやすく表現すると、これを読んだ、例えば区民の人たちが読むときにも、その部分の実感が出てくるような感じがしますね。

#### 【部会長】

すみません、いいですか。

#### 【印出井景観・都市計画課長】

あと、現時点のやつで言うと、この22ページの中で、今ある神田祭とか山王祭とか、あるいはアーツ3331も紹介させていただいていますけれども、ここに、23ページは中村委員からコメントをいただきたいなと思っているのですけれども、ブックフェスティバルとか、そういうような資源はあるよねという話はさせていただいているのだけれども、まだまだそのポテンシャルを生かしきれてなくて、本当に有効活用されていない空間があったりとか、あるいはせっかく晴れのお祭りなのに何か象徴的な使われ方がしていないとか、あるいは象徴的な使われ方をするように整備したらどうだろうかとかというのは確かに欠けているのかなと思いますけれども。

#### 【中村（政）委員】

そうですね。せっかくこれだけのイベントがもっとあるわけですから、それをもうちょっと計画的な部分で読みかえて落としていくと、このイベントはここここがつながっているよというポイントが見えてくるはずですよね。そういうのが見るとおもしろいかもしれない。ただの紹介ではなくて。

#### 【部会長】

何か日本の文化という言葉が悪いのだと思うのですけれど、文化というと歴史とか何かしち面倒くさい感じなのですけれど、さっき言ったハロウィンも文化ですよ、渋谷の生み出した。それで、結局クリエイテ

イブなものというのは、さっき生活の中にあるとおっしゃられたけれども、千代田区民の中には、本当にクリエイティブな魂というのは、本来の区民にはあるはずなのですよね。ところが、例えば森ビルさんは、いろいろなことを捉まえて、港区内でいろいろなイベントをやっているのですよね。市民緑地のやる人材として、そこには子どもも入ってこなければいけないし、やはりそこら辺の人材育成というのが、ニューヨークなんかも、今、住まう都市として変わろうとしている。それは、昔はオフィスの都市だった。それが住まうために公園も整備していますけれども、公園で活動する人材の育成にも確実にお金を入れているのです。それは2013年ごろからもうずっと入れ続けています。

それで、何を言いたいかというと、私、持論なのですけれど、公園とか道路とかは公物にとっては商品ではなかったの、マーケティングもなければ、そういう感覚がないのですよね。誰が遊んでもらうのかとか、どういうふうに使ってもらえるのかという。価格競争がないからですよね。でも、これからの都市計画には、歩いて楽しい道とか、名物になる道になるためには、24時間この道は誰が歩くのだとか、それから、では、どういう人たちを呼び込めばもっと人が歩いてくれるのかとか。それをやることによって、みんながその道を歩くと、それは防災の軸にもなるわけです。何かのときにみんなその道に行けば何か楽しいとかという感じになるので。だから、そういった意味でも、公園も、さっき都市計画でできることはとおっしゃられたのですけれど、都市計画の中で、公園の中にも全くマーケティングという考え方がなかったし、どう使われるのかという考え方がなかった。公開空地も、いわば今まではそうだったけれども、今上手に使っているところがある。例えば私が今評価しているのは赤坂インターシティーのところなのですけれど、森ビルに至る通りのところも結構たくさんの方が、昼間すごいのですよね。あと、赤坂インターシティーの上のところの公開空地もものすごくよく使われていて、非常に女性の利用率も高いのですよね。だから、そういった意味で、何かもうちょっとそういう質的な部分に都市計画の中でそういう、例えば千代田区に出す公開空地のときには使われ方とか、何かそういうのも出さなければいけないらしいよとか、どんな人が何時にどうやって使うのかとか、それをどういうキッチンカーが来て、どんなふうはこの公開空地を使うのかとか、あるいはそれをマネジメントするためにオフィスのほうで、いわゆる昔のオフィス町内会ではないのですけれど、何かやる人がいるのかとか、あるいはそれを、公開空地がやるイベントをしつらえるような、そのコーディネートのために企業がお金を出すのかとか、何かそういう部分が出てこられると、まさに千代田区らしさの中のもう一つの一面ですよね。これだけ大企業が集まっていて、そういう部分として、それを人材育成、自分たちのオフィスビルも、賃料もよくなれば、それに対して住民もウェルカムしてくれる。まさに市民緑地はそれがないとだめですよね。市民緑地だけつくられても、千代田区民が、それができてすごくよかったねという、新たな千代田区の資産ができたねと5年後言われるためには一体何が必要かと。

あと、ミッドタウンの緑と、やはりヒルズの緑は六本木の中で、多分、私は10年後には物すごく変わってくると思う。価値が変わってきて。やはりミッドタウンの緑の作り方は上手だったと思うのですよね。今のミッドタウンヨガというのは、つくったときは想定できなかったわけですよね、つくった側も。でも、それができるだけの余地があったわけですよね。でも、ヒルズのほうはどうかというと、もう何もそういうものがないのですよね。ひたすら、何というか、上に上がっていく人を入れるだけという感じになってしまうので、だから、何かそういう部分も含めて、例えば公開空地の使われ方とか、作り方とか、そういうのにもこれからは千代田区は何かうるさいらしいよとか。



それから、もう一つちょっとだけお話しさせていただくと、街路樹の話、この前、多摩市で実は答申というか提言書を出しました。多摩市長に出したのですけれど、多摩市の中で、やはり街路樹を愛してもらうために、あと、子どもや若い人が多摩市に来てもらうために、多摩市の下の方の灌木を全部撤去して、新しい市民のための花壇スペースではないですけれど、そういうものをつくったりするようなものも入れたりもして、あと、やはりベビーカーが来て、若い女性、働く女性が住もうために街路樹を更新するというのがいかに必要なのかということをやらせていただいたのですけれど、やはりそういった意味では、丸の内にある街路樹はというのはみんなすごいけれども、場所によってはやはり更新が必要なものがあって、更新して何をするかといったときに、やはり市民に愛してもらう街路樹空間というのは何なのかという、そういうふうな考え方をつくっていくと違うのかなという感じがします。ベビーカーを押す人とか、そこを歩く幼児が、お花きれいなねと言うようなまち、何かそんな、しゃべり過ぎましてすみません。

ほかに皆さん、どうでしょう。

【福井委員】

いいですか。

【部会長】

はい。

【福井委員】

若干繰り返しになるかもしれませんが、都市計画制度の構成はフィジカルプランニングを中心とした環境の整備と、それに加えてマネジメントを入れるということで進化してきたのだと思うのですが、それに今回、SDGsが入るみたいな話になっていて、最終的にそれらの課題の解決に落とし込もうという感じになっていますが、それでは都市の全体像に対して拾いきれないすき間ができてしまうのだろうなと思っているのです。都市計画マスタープランが、都市計画に対して何を規定するのかということを変更して考えなければいけないと思っています、そこで出てくるのは、やはり使い方の問題ではないかと思っています。生活文化、つまり都市の価値をどう出すのか、それぞれの特徴が何なのかというのはもちろんなのですが、先ほど来、この場に出てくる、「どう使うか」ということに対する話をここにどう書き込めるかという工夫の仕方が重要ではないかと思います。それを詳しく具体的に書くのがいいのか、どう書けるのかというところはあまり前例がないのでよくわからないのですけれど。都市計画の結果として実質的に想定されたものは、昭和から平成の前期ぐらいはフィジカルな環境だったかもしれませんが、これからの都市計画の目的は、どう使われるかということが実現して初めて成果が出るのだとすると、そこへのメッセージをよりわかりやすくしていただくのがいいのではないかなと思いました。

【部会長】

すみません、では、三友先生。

### 【三友委員】

ありがとうございます。今、福井先生がおっしゃられたようなことに通ずるかもしれないのですが、従来は、所有や管理側、つくる側から見ると、利用者の対象をかなり限定していたように思います。こういう方に使っていただいて、こういう使い方をするだろうと予想と言いますか、ほとんど決めつけているようなもので、提供する側が使って欲しい人と思っている層に、実際に使って欲しいと以前は考えられていたわけです。しかし、実際には使って欲しくないと思っていた人たちが使ったり、想定していない使い方をされたりするのが、公共空間だと思うのです。本来のマネジメントは運営視点で、使いたい人たちに使いやすいように使ってもらうようにすべきです。そうではなく、想定内に使ってもらう管理という視点ばかりが先立ち、そういう使い方はできませんと拒否ばかりしていると、利用者側もそれなら使わないということになってしまいます。それでは本当に公共空間を使いたい人が使わないということになり、お金をかけて良い空間をつくっても、実際には使われない空間が多数存在してしまうことにつながっているのではないかと危惧しています。やはり、使いたいと思っている方が、使いやすいように使えるようにするという運営視点のマネジメントが重要だと改めて思います。

先ほど、担い手やプレーヤーのお話にもあったのですが、マネジメント主体がマネジメント、利用者が利用をしていることが、あまりにもかけ離れているところは、あまりうまくいっていないように思います。利用者側から一部でも良いのでマネジメントをする方にまわるなど、利用とマネジメントがあまり乖離しない方がうまくいくのではないかと考えています。それは、都心にある千代田区ではなかなか難しいことかと思いますが、素晴らしい白書もできますので、その辺りを目指していただければと思います。

### 【部会長】

ありがとうございました。

### 【中村（政）委員】

関連して、今の話ももう少し具体的に言うと、例えば、やはりグラウンドレベル、1階部分の活用ということに対する意識がすごく大事です。特にさっきもいろいろ言われていますけれども、やはり開発でどんとオフィスビルが建ちました、周りの人たちはまちづくりで頑張っているけれど、1階部分は何もないと。ただ、車の止めるスペースがあって、無機質なオフィスビルがどんとできると、そのことによって、その辺一帯がもう1階部分は死ぬのですよね。それに対する考え方は、計画上どうなっているの、誰が判断してそれをオーケーにするのと。つまりまちの1階でみんな僕らが歩き、車がそこを通り、そこのにぎわいが1階部分に一番宿るはずなのに、その1階部分に関してのまちに対する意識が、その部分が低くなると、かなりまちづくり的にも、もちろん文化的なそこでの活動する何かイベントをつくる際にも、非常にダメージが大きいと思います。非常に感じます、それは千代田区にいて。僕は今、小川町と岩本町、二つに住んでいるのですが、靖国通り沿いからずっと岩本町のほうに行くと、やはりそこからずっと静かになって、でも古いビルがまだ残っているのです、あっち側は。セットエリアのほうも含めて。でも、だんだんあっちも来ているのです。そうすると、ここにこう来るかと思うと、いや、もう何か人の温かい空間をどこにこれから千代田はつくっていくのだろうという危機感を感じるのです。なので、本当に大きな波が、ビルの高い波が

やってくるとよく言うのですけれど、でも、そこにやはり大きな波が来たときに、サーフィンをやる人は燃えてガッツが出てくるのですけれど、みんな逃げますよね、普通ね。なので、千代田の状況はそういう開発に関しての1階部分をもう少しちゃんと設計できるような、必要なというか、さっきの街路樹とか、そこでの活動性、その公開空地の利用。でも、利用といっても、実際見ると、もう動けない、もしくは動線とれないように植物が置かれて。

#### 【部会長】

そうなのですよ、植え過ぎなのですよ、あれ。10年たったらどうするのかと。

#### 【中村（政）委員】

すごく使えないのですよね。使いにくい。ただ飾っている感じですね。なので、そこは、本来はもう少し緑という視点だけではなくて、そこで活動する、何かそこでの本当のにぎわいをつくるという意味においての計画に対して公開空地の設計をするというような、本来。あとは、その公開空地を設計して、そういう方向で行ったとしても、最初の数年をやったとしても、その後やらなくなる場合も多いと思うのですね。そうした場合、そのマネジメントと言っている、企業側のマネジメント、エリマネの会社は、僕もあるところに入っているのですけれど、やはり企業のエリマネの考え方の中のまちづくりになっているので、だんだん行きにくくなるのですよ。それは先ほど委員がおっしゃったことと全く同じで、なので、それを使い手の人たちのごくごく楽しみを持つ自然な気持ち、やはり排除されてしまう、利用されてしまうというのも危険だなと思いますね。なので、特にグラウンドレベルの話は、千代田区は多分、相当慎重にしないと、本当にこれから8万人が住むようなまちになろうとしているときに、1階が本当無機質になってしまうと、今よい、まだ江戸期の感覚、感性が残るまちづくりの、まちの雰囲気が見えなくなってしまうですよ。なので、そこは何かこういう計画のときにしっかりと言語化するべきではないかなと思います。

#### 【印出井景観・都市計画課長】

その辺はここで言うところの、例えばエリアの歴史を踏まえた将来像みたいなところで、大ぐくりに重点的に整理しつつ、そこから先、出張所でどうなのか、地区計画単位でどうなのかというところに進めていきながら、手法として、例えば今、駐車場整備計画のあり方を考えていくけれども、この市街地に車が入ってこないような駐車場の適正な配置はどうなのかということと、地区計画みたいなものをあわせて考えていく。だから、中村先生がおっしゃったように、それを複数の制度とか手法とかをあわせて考えたときの将来像を描くのが都市計画マスタープランなのだと思うのですよ。だから、まずは中村委員がおっしゃるように、神田エリアはもともと住んでいて、仕事していて、仕事している同士、住んでいる人同士が交流していったまちだとしたら、その歓談のよさを今に生かすとしたら、一つしては低層部のにぎわい。にぎわいもどういうにぎわいなのかという、さらに一歩進んだ実質的なものもあるでしょうし、それから、道路についてもあまり車は来ないほうがいいよねとかというのもあると思うので、それを手法で落とし込んでいったときに、きちんと整合して進めることができるようなものを書き込んでおくということが必要だと思うのです。そこ

は問題認識としては持っていますし、どういうふうに変えていったらいいのかというアイデアをこれから大体1年半ぐらい、1年ぐらいの間にいただければいいでしょうし、その間に区民とのフィードバックのチャンスもあると思うので、それを踏まえて進めていきたいなと思います。

#### 【部会長】

今のお話に近いのですが、例えば外国人に対して皇居だとか、そういうところを見せたいと思っても、例えば東京駅を行幸通りのこちら側から見ている人たちはいるのだろうか、いないのですよね。もうあそこを歩いている人たちというのは、オフィスの人はいますけれど、外国人は、二重橋から皇居に行くほうはいるのですが、せっかくの広い通りで、日本の象徴である東京駅をあれだけきれいに整備したのだけれど、駅なかの充実のし過ぎなのかよくわからないのですが、今はすごく東京駅は頑張っただけで、みんな、昔は、KITTEができたときは少しいたし、丸ビルにも、あるいはこちらの丸善のほうとかにも結構人が流れていたのですが、今はもうみんな地下からしか利用しなくなって、行幸通りも通らなければ、そこから皇居に歩いて行けるということすらも外国人はあまり知らないし、それをやっている人というのは見たことが私も、学生を連れて結構皇居へ行くのであれなのですが、見たことがないのですよね。だから、何かそういう駅なかという部分も、駅なかが強化された一方で、その1階部分を誰が歩くのかという。そのときに、まさにさっき言った居心地のいい歩きたい道路というのをどうするのか。歩きたい道路があって、その脇に小さい外部公園があれば、そこを一つの休憩場所としてリニューアルするという新しい公園のありようが出てきたりするし、最近だと、うちは四谷三丁目の付近なのですが、小さい空間が急にシャワーとロッカールームの空間になったのですね、外苑東通り沿いなのですが、だから、そういう店舗が、ここはそういう需要があるぞといって。なおかつお話ししたいのは、その3階に、そのロッカールームをつくる人たちのコワーキングスペースができていますよ。すごい小さな小さな空間なのですが、ですけれども、それは今まで普通の店舗利用だったのですが、人が全然入らなかった。それをそういうロッカーにして、3階にコワーキングスペースをすることによって新たなそういうものをつくっている。だから、何かそういう部分も、今までは皇居の周りばかりという感じだったけれども、もっと小さいものがあってもいいし、やはりグラウンドレベルの景観をどうやって見せるのか、あるいはそこをどう楽しく居心地がよくつくるのかというのは物すごく大事で、その部分をやはり千代田区だからこそできる。それに対して、では、SDGsでその千代田区内の企業さんにそういうものの人材育成、例えばそれは生物多様性だったり、公園における生物多様性だったり、あるいは障害者に対する支援だったり、いろいろなメニューができるはずで、そのまさに人材育成のところにSDGsとしてお金を出してもらおうという、何かそういうやり方だと非常に新しい方向性が見られるのかなという気がしますよね。

#### 【中村（政）委員】

そうですね。あと、今の話にも少しもっと広く、話が大きくなるかもしれないのですが、この千代田区の理念に書かれている、あと将来像とか大きなビジョンのところ、確かに、この「歴史に育まれた豊かな都心環境を次世代に継承し、世界の人に愛されるまち、千代田」、非常にわかりやすいといったらわかりやすいのですが、この理念の部分に対して、果たしてこの次の、本当に次の都市像といえますか、生活感も含

めて考えて、今、盛んに議論されている部分の中でも地層学の部分で、前にも言われていた話ですけれども、いわゆる地球上に人間が生活を営んだ時代が地球環境に対してかなり負荷をかけている。この時代を人新世、新しい人の世紀の世と書くのですね。これはアントロポセンとかいう言い方の考え方なのですけれども、つまり人間と人間以外を考えたとき、人類が行ってきた今の地層は、ものすごく地球の、時代が進んだときに、残るのは放射能とプラスチックのごみとコンクリートの塊の層が残るのだらうと、というように言われてきていて、では、その危機感に関して、こういう都市計画をつくる際に、いわゆる千代田の中だけの話ではないかもしれないけれども、千代田という皇居を抱え、かつ非常に求心性のある企業が、大企業がいっぱいあるまちなので、理念のところにもう少し大きい視点を入れてほしいなど。いわゆる人類が行ってきたことと、人間以外、つまり鉱物、植物、動物、さまざまな生物も含めて、それらとの同等な関係をつくっていくというのは次のビジョンのはずなのですよね。それは、やはりどうしても人間中心主義的になり、経済性優先になりがちで今こういう都市環境になってきたという意味での、少し概念、上位過ぎて書きにくいかもしれませんが、やはりそういうようなビジョンを千代田は打ち出すぐらいのことをしたほうが、こういうほかの区との連携も含めて考えると、これだけのコンクリートの塊が都心に密集して過密に住むまちですから、そういう、逆にその部分をどうするかという課題意識に置き換えていくようなものも必要かなというのが少し思いました。

あと、グラウンドレベルの話で言うと、単純に、例えば座るところがないのですよね、歩道に。つまりベンチを置かないではないですか。ベンチを置かない、しかもホームレスの人がそこにいると嫌がるから、居心地の悪い、座り心地の悪いベンチばかり置きますよね、デザインして。真ん中に肘かけみたいなのを置いて横たわれないようにしている。だから、グラウンドレベルで考えると、通常、やはり本当にベンチを置いて、リラックスしておじいちゃん、おばあちゃんも時々歩きながら休憩できるようなものは普通にあっていいことなのだけれども、普通に起きてないというのが、多分いろいろなことがあるのでしょうけれども、そこは突破する一つ具体的なことかなとも思います、聞いていて、はい。

#### 【部会長】

ありがとうございます。

あと、すみません、小さな話なのですけれど、昨日、テレビ番組を見ていて、もしかしてご覧になった方もあると思うのです。QRコードが世界でいろいろ使われているという何か夜の番組だったと思うのですけれど、何と韓国ではQRコードをかざすと、お墓の中の個人の歴史だとか、そんなものまで出てくる。それは行き過ぎなのなのですが、イギリスではいろいろなところにかざすと、もうその歴史だとか、そういうのが一番出てくる。そうすると、千代田区はそこを何か、丸の内のところへ行って、一丁ロンドンのころの昔のまちなみが見られるとか、何かそういう何というか、あるいは逆に言えば、すぐここで行かれるコワーキングスペースみたいなのところとか、週刊誌とかを見られるとかというのもいいのですけれども、何かそういうものをもうちょっと人材育成とあわせて、それこそ企業支援でやってもらうような形を考えると、要するにQRコードと言ってしまうとあれかもしれませんけれど、都市のサインですから、これは都市計画でやるべき問題なのです。要するに案内がないのです。特に、やはり一番問題なのは、ロットが大き過ぎて、あれで歩いている人も、オフィスビルの人ばかりなので、どこに行くのというのがなかなか聞きにくいです

よね。だから、そうだとすれば都市のサインとしてそういうものがあって、その中に千代田区の歴史だとか、あるいは江戸からの歴史だとか、そういうものがわかったりすると、あるいは祭りのわっしょいわっしょいというのが聞こえてくるみたい。まさに古い言葉で言うと、いわゆる丸ごと博物館みたいな話ですけど、でも、今、QRコードで十分できる話だし、それはそこにある例えばオフィスビルにちょっとお金を出してもらえればすぐできる話なので、材料は多分あると思うので、何かもうちょっと、まちを楽しむという視点で国際的な海外の人たちにもどう千代田区を楽しんでもらうかというところを何か考えていただくのがいいのかなと思います。

**【印出井景観・都市計画課長】**

ICTの活用という視点も当然あるのですが、どちらかというと、やはり、いわゆるスマートエネルギーの最適化だとか、自動運転とかということが都市計画の中では射程になってくると思うのですが、それだけではなくて、都市の楽しみ方。

**【部会長】**

そういうものに比べると非常にローコストで、民間企業のちょっとした支援、ファンドの支援でできることですね。

**【印出井景観・都市計画課長】**

はい。だから、都市の楽しみ方とICTを掛け合わせるという視点もあるのではないかと。

**【部会長】**

ええ。今、一応、日本は一番そのQRコードが遅れていますから、それを千代田区ではこういうふう頑張るといえるのかと思いますけれどもね。

**【印出井景観・都市計画課長】**

確かにある意味、大阪の地下街ほどではないですが、やはり千代田区の中にも相当なダンジョンがあったりする中で、やはり地下にも誘導機能だったり、ビルフロアレベルとか、それこそ数センチレベルでもそういう誘導とかができる時代になってきているので、そういう視点については、事例も含めて調べさせていただきながら、今後どういう方向で整理できるのかというのは。

**【部会長】**

生物多様性絡みだと、その公開空地の中でぱっとやると、この公開空地で見られる鳥だとか、そういうのが出てくるのもあります。

**【中村（政）委員】**

1点だけ、あと、千代田区に住んでいる外国の方の視点というのはどこかに入ってますでしょ。

【印出井景観・都市計画課長】

ああ、なるほど。

【中村（政）委員】

つまり今のお話に連携して言うと、受験者で中国の人が爆発的に増えているのです。100人単位で藝大でも増えてきていて、もう中国に日本の大学に来る予備校ができていくらいなのです。やはり中国だけではなくて海外から都心に留学してくる、それが5年とか10年の滞在からもっと、そこにずっと仕事をして働いてくるというように、かなり外国籍の人たちが都心、特に千代田区でも働き、住み出すと思うのですね。そういう視点がどこかにないと、日本人だけの都市計画になってしまうという感じがしました。

【印出井景観・都市計画課長】

視点という意味では欠けているのかなと思うのですが、外国人の居住の動向については、データとしては把握してはいます、データ編の17ページなのですが、千代田区に住んでいる人というのはあまり数は増えてないのですね。ただ、23区レベルで言うと、この20年間で8割、2倍近く増えていますから。

【中村（政）委員】

それもかなり増えますよ、これから。実際の現場で感じますから。

【印出井景観・都市計画課長】

はい。確かに内なる国際化という意味で言うと、そういう視点での調査は十分ではなかったのかなと。

【中村（政）委員】

それで言うと、危機的な状況のときに日本語だけでということも問題になっていたりするのではないですか。だから、それは必要かなと思いますね。

【印出井景観・都市計画課長】

では、そろそろ。

【部会長】

やはり何かこういうふうにとまとまってくると、今までも中村先生とか、いろいろ言っていたところは一体どこに集約されてしまうのだろう。それはColumnということだけだともったいないし、何か働いて住む人たちがどう輝けるのかとか、その舞台が見えないのですよね、やはり。その辺りを何か、今、渋谷で、この前も通ったらレモネード屋さんがすごく混んでいて、レモネードを食べるのに何かブランコがあって、そこのブランコに揺らぎながらレモネードを飲めるという、そこは何か行列しているとか、そ

ういうところをどんどん、どんどん新しい開発でやっているのです、こういうのに比べると千代田区は5年後になったら遅れるぞというところが怖いという、今は一番最先端ですけれど。はい、よろしくお願いします。

**【印出井景観・都市計画課長】**

次回の日程調整はまだしていませんけれども、親会の、都計審が3月にありますので、今日いただいた意見などをいただきながら、今までいただいた意見が全部すり抜けているというのではなくて、一旦ランダムにいただいた意見を整理して、今、枠組みをつくっているということですね。その枠組みができた後に、またそこに材料を入れていただくという形になりますので、また、そういう作業をちょっと。3月の都計審では、少し今日いただいた意見を踏まえて、今日の資料を整理しながら枠組み論をまとめていただこうかなと思います。その後に、そこにいただく中身をもう一度ご議論いただこうかなと思いますので、年度がかわってからということになりますけれども、よろしくお願いいたします。

**【部会長】**

今日はどうもありがとうございました。

《発言記録作成：環境まちづくり部景観・都市計画課》